

えんちょう通信

No.109

令和5年10月30日
福島市立清水幼稚園
発行者 佐藤一男

大事にされるということ

10月26日(木)、今年も「しみずキッチン」のみなさんが幼稚園に来て、芋煮をごちそうしてくださいました。

朝9時過ぎ、二文字屋昇さんと大内直さんが、幼稚園の玄関前に大きなガスコンロと鍋を設置しました。

材料は清水学習センターの分館で切って、運んできます。調理をしてくださっている大内さんの話では、里芋が10kg、豚肉が3.5kg、ヒラタケが2箱、そして大根、人参、ごぼうに、こんにやくと白菜。豆腐も12丁入ります。そしてネギはなんと30本も入れるそうです。学童クラブの子どもたちの分も一緒に作るので、大変な量です。

みなさん、「子どもたちが、おいしそうに食べるのを見るのは本当にうれしいよね・・・。」などと話しながら楽しそうに調理をされています。

11時頃になると、園舎にもいい匂いが広がってきて、子どもたちは気が気でありません。

男の子が二人、玄関のところまで様子を見に来ました。「うわ！すごい！いいにおい。焼肉かな・・・。」
「ちょっと、靴をはいて、見に行ってみようかな・・・。」と私の顔をのぞき込みます。

「もう少しだから、待ってようね。」と言うと、その子どもたちは目をこらして白い湯気があがる鍋の方を見えています。「あっ！こんにやく いっぱいだ！」

「人参も いっぱい。」「めっちゃ、いい匂いだ！」

もう嬉しくなって、保育室に駆けて戻って行きました。

11時半、芋煮ができ上がり、子どもたちは、お椀にいっぱい芋煮をよそってもらいました。

今年は三歳児のたんぼぼ組の子どもたちとその保護者の方々も来てくれました。ですからみんなで80人くらいの盛大な芋煮会になりました。芋煮はとてもおいしくて、「しみずキッチン」のみなさんの愛情がたっぷり入っているんだなと思いました。

地域のみなさまに大事にされ、その愛情をたっぷり受けて、子どもたちは、人を思いやる優しい子に育っていくに違いありません。秋のやわらかな陽だまりの中、みんなで幸せな時間を過ごしました。

